

2020年7月某日

差枚

+2908枚

RANK

Α

実戦機種

SLOTバジリスク~甲賀忍法帖~Ⅲ

実戦レポート

もうどれくらい、この企画のタイトルにもなっている「S級」を獲得していないだろうか…。高設定に座りつつ、1日のトータルで+3000枚以上。スロッターとしての最上ランクを名乗るならば決して高すぎるハードルではない気がするけれど、前回取ったのはいつだったっけ?と遡ったらば「9月6日」という日付が出てきた。自粛期間があったとはいえ、もうすぐ年単位でのご無沙汰になっちまうぞ! 熟年夫婦の性生活かよ!(刺さるブーメラン)

とはいえオレも、ただのほほんとB級やらC級やらを取りまくっていたワケではない。惜しいところまで迫った「ほぼS」のA級は何度かあった。一番近いところでは、先月このお店で打った新鬼武者だ。朝イチに座った台で早々と設定5以上濃厚画面が出現し、その挙動はまさにネット上で伝え聞く設定6の様子と完全に一致。ゆっくり出玉を伸ばしながら、あと一歩のヒキが足りずに+2000枚ちょいで終わってしまったのだった。

でも、その経験は確かにオレの血となり肉となり、財布を潤し勇気を与えてくれる。この店なら、今日もまたS級に迫ることができるかもしれない。希望に溢れて押した抽選機から「63番」という数字が出てきた時は、その希望が一瞬薄れたものの、入店して真っすぐに向かった「SLOTバジリスク~甲賀忍法帖~Ⅲ」に誰も座っていないのを見た時、オレの心にまた光が灯った。その2台の台番末尾はどちらも、今日の「当り末尾」になる可能性が高いな、と予想していた数字で、どちらかが取れれば御の字と思っていたのだ。それが両方とも空いているなんて!

反射的に「それなら目立つカド台!」と確保して打ちはじめ、1000円打って設定変更挙動も確認できたところで、ふと冷静に考えてみる。いや待て、と。この2台の末尾数字は、期待度は全く同じじゃなかったハズだぞ、と。もう片方の数字の方が、どちらかと言えば期待できる気配じゃなかったか?

1000円打ってすぐヤメた台なら他の人も若干座りづらいかもしれないな、という「もしかしたら後で戻れるかも」的考えもありつつ、韋駄天の早さで隣へ移動。そしてCZを引き、ARTとボーナスを何度か引いて、徐々にしかし確実に浮かび上がってくる高設定挙動。その確信を高めるべく店内を見回ると、どれもこれもオレが期待した通りの出玉や挙動を見せつけてやがる。間違いない、オレが座っている末尾が今日の当りだ! あとは時間の許す限り回すだけである。夜19時近くに出玉がノマれかけた時は本当に泣きそうだったけど、そこからARTとボーナスの連打がようやく絡んで、最終出玉は3000枚オーバー! これは届くか。届いて……ないいい! A